

## 志賀町訪問まとめ

### 1. はじめに

1 月末から 3 月まで市内自治会に呼びかけ募った義援金（85 万円）を手渡すため志賀町を訪問した。神奈川県が復興支援のため職員を派遣したのが志賀町であり、座間市職員も志賀町に派遣された縁から、義援金贈呈先として志賀町を選定した。

### 2. 義援金贈呈

5 月 20 日（月）13 時に志賀町役場を訪問し、義援金をお渡した。

志賀町出席者：大正路志賀町区長会会長、岡部副会長、矢部会計担当、山下総務課長、岡総務課区長会事務局

座間市自連出席者：湯浅会長、清原副会長、吉岡会計担当

義援金を集めた経緯、志賀町選定の経緯を説明し、義援金および協力自治会一覧をお渡した。合わせて、大凧保存会のご厚意により入手した「輝龍」レプリカ凧、ミニサイズの凧および手ぬぐいを、早期の復興を願って贈呈した。



### 3. 志賀町の被害および復興の状況について

志賀町の被害状況および復興の状況について、志賀町総務課長の山下様から説明頂いた。要約すると、

①人的被害は、死亡 2 名、重傷者 7 名、軽症者 97 名。ただし、災害関連死は 10 名（うち数か否かは不明）。

②火災：なし

③水道：3 月 2 日（土）にすべての上水道区で通水が完了。横浜市を中心に神奈川県の水道事業者含めて協力いただき、比較的早く復旧ができた

④避難状況：5 月 7 日時点での避難状況は、5 指定避難所 148 名、1 自主避難所 20 名、1 福祉避難所 4 名。1.5 次避難者は 1 名、2 次避難者は 24 名（ホテル等）

⑤住民生活支援状況

- 罹災証明や住宅資金相談など、住宅に関する窓口をワンストップでできるように工夫している。（写真右）
- 建設型仮設住宅は、194 戸設置済み 169 戸入居決定済み。今後の予定があり、トータ



ル 303 戸設置予定。(写真左は建設型、右はトレーラーハウス型長野県から支援)



- 仮設トイレ：5月8日現在6か所23基設置（自主避難所等も含む）。随時撤去中。和式トイレはとても不評。（写真右は、本当はやってはいけないが、必要に駆られて手すりを設置。被災地ではこういった工夫が必要不可欠）
- 医療関連：町立富来病院が外観は問題なく見たものの内部は損壊状況がひどく、使える状況になかった。ようやく5月13日になって、西病棟にて入院診療が開始できた。
- 公費による解体・撤去：5月19日時点で住家466棟、非住家1463棟が対象となっている。非住家は納屋、倉庫、家畜用の他、空き家も含まれる。中には、空き家で被害になったのでこの際公費でと目論まれている例もある。解体・撤去には1棟あたり10日ほどかかるため、部隊を増やそうとしているが、かなりの時間がかかる。
- 災害ごみ仮置き場：公費解体も始まり、災害ごみの置き場が必要となっており、廃校となった学校のグラウンドを整備し、仮置き場を設置した。こんな場所が座間にあるだろうか？



(災害ごみ仮置き場 一方通行出口)



(写真左側のがれきは公費解体によるもの)



左の写真：家電なども分けけて置いている。運んでくると、業者の人が下すのを手伝ってくれて、仕分けをしているという。

#### 4. 意見交換

- 避難所の開設にどの程度かかったのかという問いに対し、当日もしくは翌日には開設できたとの回答。

ただし、やはり天井などの損壊がひどく、計画していた避難所を使用できない例があった。「翌日閉鎖」と記録されており、いったん開設後、チェックして閉鎖したものと思われる。

大正路会長曰く、「マニュアルは全く使えなかった。あの揺れの中、テーブルの下に隠れてなんてできっこない。やったとしても家が潰れたらどうする？まず、外に出るべき？」

「全員が被災者なので、シナリオ通りにいくわけがない。市職員も被災者で来られるわけがない。鍵をすべて預かっていたので、会長として独断で開設した。そうするしかなかった。」

「〇〇班の班分けなんて意味がない。被災している人に〇〇班だからこうしろとはとても言えない。避難してきた人たちに手伝ってもらってやっとできた」の言葉は重い。

一方で、会長も「でも訓練は大事」と話されている。

- 自主避難所の扱いがとても曖昧だった。致し方なく自主避難している人もいる。この位置づけを、必要性を認識したうえで、明確にする必要がある。
- 家屋の損壊状況チェックは、一度目は外観だけのチェックになる。  
傾き加減をチェックしているようだが、そこで「半壊」と分類された家屋でも、中に入るとドアが閉まらない、襖が動かないなど、とても住める状況にないケースが多かった。  
半壊と言われて補助も少なく、どうしたら良いか途方に暮れている人は多くいる。
- 4時発災というのは、ある意味ラッキーだったかもしれない。まだ陽が落ちる前で明るく、当初の津波警報に対し、まずは高台へという行動がとれた。  
正月の宴会が始まる直前で酔っぱらう前だったので動けたのは大きい。
- 被災すると精神的にもダメージを受ける人は多く、あらぬ行動をとる人が出てくる。  
どうしようもないことだが、対応するしかない。  
会長宅に夜中に来た人もいたとのこと。
- 神奈川県や愛知県などの支援は本当にありがたかった。  
しかし、被害の小さかった隣接自治体からの人的支援はなぜなかったのか？  
もっと近場で効率的な支援ができたのではないか。  
協定を結んでいないとかの話ではなく、できないのが不思議な感じがする。  
被災地での率直な意見だと思う。

#### 5. 被災地見学

いたるところ、ブルーシートで覆った家屋が目に入る。

志賀町でも被害が大きく多かった、富来川流域を案内いただいた。



このような風景はいたるところで見られる



ブルーシートで被われた家屋の左側では公費解体中



車中から見にくいですが、寺院の鐘撞堂



ダンボールで覆って何とかプライベート空間を確保した



避難所内の男性用更衣室：女性の更衣室は当然だが、男性の更衣室も必要とのこと。  
女性の視点で、男の着替えは見たくもないということで設置



避難所内の食堂：指導があり、食堂を設置。  
現状、座間の避難所ではあまり考えられていない。



ペット用避難所：犬・猫は同居できなかった。猫を飼っている被災者は猫と同居を考え、ほとんどが車中避難をした。